

湖西地区小中学生の競技離脱に関する研究

—人的つながりに着目して—

山口 莉沙 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：スポーツ離れ ソーシャル・キャピタル 人的つながり

1. はじめに

昨今では、子どもの体力低下が一般的な社会問題として捉えられている。体力低下の原因として、体育嫌いやスポーツ離れなどが指摘される。子どもの体力低下は、肥満や生活習慣病などの問題を引き起こす。

このような問題を解決するために文部科学省では、スポーツ振興基本計画の中で、スポーツ実践を推奨している。そこで問題になるのが、スポーツ離れ、すなわち競技離脱である。子どものスポーツ活動は、地域のスポーツ少年団や学校における運動部活動で多く行われている。それらの活動の実態を探り、競技離脱に関する問題点を「人的つながり」に着目し、究明した。

2. 研究方法

文部科学省の取り組みに関する文献および、ソーシャル・キャピタルに関する文献調査を行った。その後、湖西地区の中学生を対象としたスポーツ活動状況に関するアンケート調査とフィールドリサーチを実施した。

3. 結果

goo Research (2007)「子どものスポーツに関する調査」によると、約 20%の子どもがスポーツに対して苦手・嫌い・興味がないという結果になっている。

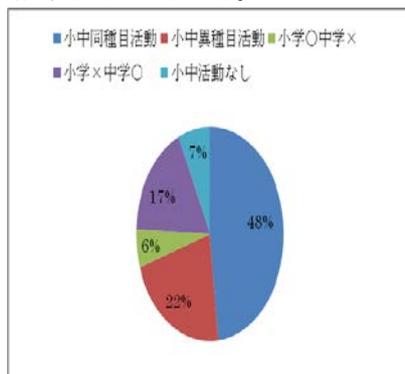


図1 男子のスポーツ活動状況(筆者作成)

図1・2は滋賀県湖西地区中学生のスポーツ実施状況である。小学校期からの活動継続者が半数を超え

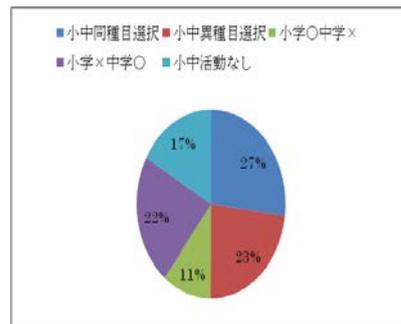


図2 女子のスポーツ活動状況(筆者作成)

して、活動をやめてしまった競技離脱者が男子 6%、女子 11%いる。

競技離脱に至った理由は、保護者関係・友人関係・指導者に関わる回答が多く得られた。このことから、保護者は過度なサポートは控えること、友人関係の希薄化に歯止めをかけるために人と関わる時間の拡大を目指すこと、指導者の充実を目指すことが必要だと考えられる。

また、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)は、その目的を果たすためにスポーツが有効な装置であることがわかった。

4. おわりに

本研究では、スポーツに包含されている価値をさらに有効的に地域で活用するために「人的つながり」が希薄であることを問題の所在とした。子どもを取り巻く人的つながりは、スポーツ活動に影響を及ぼす。その影響は身近なところから改善できると考えた。スポーツに対する考え方・価値の変換を目指し、解決策をあげた。子どもたちのよりよい「人的ネットワーク」構築のための、環境づくりのきっかけとしたい。

引用・参考文献

中村 和彦 (2009)「子どもの体力低下からみえてくるもの」体力科学 (58), 12

る。しかし、小学校期から現在まで全く活動を行っていない者が男子 7%、女子 17%いる。そ

して、活動を